



Hewlett Packard
Enterprise

HPE 3PAR Service Console および StoreServ Management Console 3.1 クイック セットアップガイド

摘要

このクイックセットアップガイドでは、HPE 3PAR Service Console と HPE 3PAR StoreServ Management Console について紹介します。

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商業用製品の技術情報は、ベンダー標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Google™は、Google Inc.の商標です。

Linux®は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft®、Windows®、および Hyper-V®は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Mozilla®および Firefox®は、Mozilla Incorporated の商標です。

Red Hat®は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標です。

UNIX®は、The Open Group の登録商標です。

VMware®、VMware® ESX®、VMware®ESXi™、VMware®vCenter™、および VMware vSphere®は、米国における VMware, Inc.の登録商標です。

目次

Service Console および Management Console の概要	5
サービスプロセッサの概要	8
サポートされるプラットフォームとブラウザ	9
デフォルトユーザーアカウント	10
デフォルト SP ユーザーアカウント.....	10
デフォルト CLI ユーザーアカウント.....	10
インストール前のワークシート	12
サービスプロセッサのセットアップ	15
VSP の展開.....	15
VMware を使用した仮想 SP の展開.....	15
DHCP を使用した仮想 SP のセットアップ.....	16
Hyper-V での仮想 SP の展開.....	16
Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2016 での仮想 SP の展開.....	16
サービスプロセッサへの接続.....	17
サービスプロセッサのセットアップ.....	17
HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの SC への追加.....	18
SSMC のインストール.....	18
前提条件.....	18
サポートされているホストプラットフォーム.....	19
Windows 環境への SSMC のインストール.....	19
Windows でのサイレントインストールオプションの使用.....	20
Linux 環境への SSMC のインストール.....	20
Linux でのサイレントインストールオプションの使用.....	21
HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの SSMC への追加.....	21
ホストの作成.....	22
仮想ボリュームの作成.....	22
仮想ボリュームのホストへのエクスポート.....	22
HPE 3PAR Service Console へのログイン	23
HPE 3PAR SSMC へのログイン	24
ホストおよび仮想ボリュームの概念	25
ホストの概念.....	25
仮想ボリュームの概念.....	25

サポートと他のリソース	27
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	27
アップデートへのアクセス.....	27
Web サイト.....	28
カスタマーセルフリペア (CSR)	28
リモートサポート (HPE 通報サービス)	28
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	29
ブラウザの警告	30
Microsoft Internet Explorer ブラウザーの警告の削除.....	30
Google Chrome ブラウザーの警告の削除.....	30
Mozilla Firefox ブラウザーの警告の削除.....	31
テキストベースのユーザーインターフェイス	33
TUI の操作.....	33
テキストベースのユーザーインターフェイスのタスク	33
メインメニューのオプション.....	33
ネットワークの構成.....	34
SP サービスのシャット ダウン/起動.....	34
サービスプロセッサの再起動.....	34
サービスプロセッサのシャットダウン.....	34
安全なパスワード管理へのアクセス.....	34
セットアップ前のリモートサポートの無効化.....	35
用語	36

Service Console および Management Console の概要

HPE 3PAR Service Console (SC) は、接続された 3PAR StoreServ ストレージシステムから、オンデマンドによるものに加え、事前定義の間隔でデータを収集し、構成されていれば HPE 3PAR Secure Service Architecture (SSA) にデータを送信するアプライアンスです。

SP は SC を実行するプラットフォームです。サポートデータを Hewlett Packard Enterprise に送信し、Hewlett Packard Enterprise テクニカルサポートエンジニアがリモートログインして問題を解決する方法を提供します。SC は SP 用の GUI であり、SPOCC に代わるものです。これは、HPE 3PAR StoreServ Management Console (SSMC) とよく似たレイアウトで、合理化された、より使いやすいインターフェイスを提供します。

HPE 3PAR StoreServ Management Console ソフトウェアは、HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムを監視するための、最新のブラウザーベースのインターフェイスを提供します。SSMC は、1つのパッケージとしてインストールされるスタンドアロン製品です。SSMC は、Administrator Console と Main Console の2つのコンソールからなっています。Administrator Console を使用すると、StoreServ システムを追加、編集、および削除できます。メインコンソールには、追加した StoreServ システムを管理するための機能があります。

SP 5.0 リリースでは、SSMC は別のシステム上にインストールする必要があり、1つの SP には1つの HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムのみを接続することができます。

図 1: サービスプロセッサと SSMC のセットアップの概要 (6 ページ) は、SP のセットアッププロセスの概要を示し、**図 2: ストレージの仮想化の概要** (7 ページ) は、仮想ストレージの使用の概要を示します。

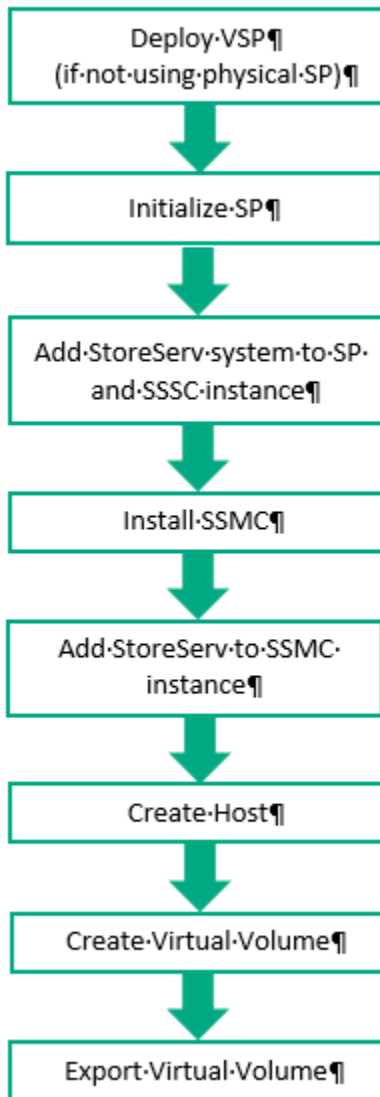


図 1: サービスプロセッサと SSMC のセットアップの概要

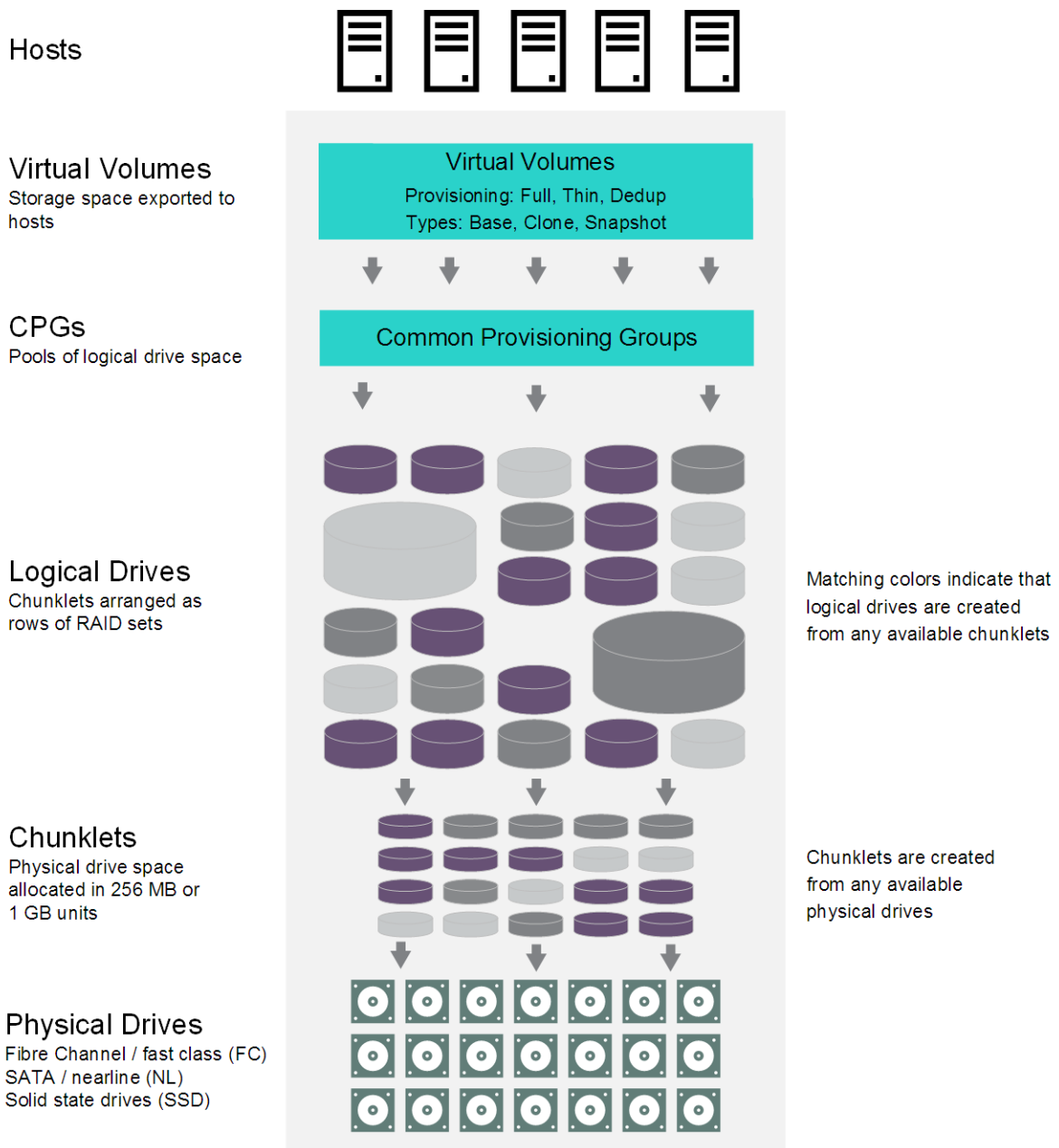


図 2: ストレージの仮想化の概要

詳細情報

[ホストおよび仮想ボリュームの概念\(25 ページ\)](#)

[サービスプロセッサのセットアップ\(15 ページ\)](#)

サービスプロセッサの概要

各 HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムには、サービスプロセッサ（SP）が必要です。SP は、物理または仮想のどちらかが可能です。SP は、リモート監視、エラー検出およびレポート機能を提供し、ストレージシステムに関わる診断およびメンテナンス作業を支援するために設計されています。SP は、HPE 3PAR Remote Support にサポートデータのみを送信します。仮想 SP は、仮想マシン（VM）として展開されます。仮想 SP ソフトウェアは、VMware vSphere ハイパーバイザ用の Open Virtual Format（OVF）と、Hyper-V 用の自己解凍型仮想ハードディスク（VHD）パッケージで提供されます。仮想 SP は、お客様が所有しお客様が提供するサーバー上で動作し、イーサネット接続を介してストレージシステムと通信します。

サポートされるプラットフォームとブラウザ

物理 SP

- HPE ProLiant DL320e (Gen8)
- HPE ProLiant DL360e (Gen8)
- HPE ProLiant DL120 (Gen9)

仮想 SP

- VMware ESXi 5.5/6.0/6.5
- Microsoft Hyper-V 2012/2012 R2/2016

ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer
- Microsoft Windows Edge
- Mozilla Firefox
- Google Chrome

最新のブラウザバージョン情報にアクセスするには、次の Web サイトで、Hewlett Packard Enterprise のストレージ製品に移動します。<https://h20272.www2.hpe.com/SPOCK/>

デフォルトユーザーアカウント

この項では、サービスプロセッサと StoreServ の初期化の際に作成されたデフォルトのユーザー アカウントについて説明します。

デフォルト SP ユーザーアカウント

サービスプロセッサの初期化時に、次のユーザー アカウントが作成されます。admin、hpepartner および hpesupport。Service Console と SP システムへのログインには、コマンド行で同じユーザー名とパスワードを使用することができます。

SP 5.0 ユーザー名	SP 4.4 ユーザー名	説明
admin	3parcust	お客様の SP 管理者。このアカウントは、Hewlett Packard Enterprise の担当者は使用せず、ユーザーが変更することができます。このアカウントは、admin および hpepartner のパスワードを変更するために使用でき、Hewlett Packard Enterprise のテクニカルサポートに送信するための root および hpesupport のパスワード blob を取得することができます。
hpepartner	spvar	Hewlett Packard Enterprise サポートパートナー。このアカウントは、システムのサービスおよび診断の機能を実行するために、権限のあるサービスプロバイダーだけが使用します。hpepartner のパスワードは、お客様によって設定され、オンサイトの Hewlett Packard Enterprise サービス担当者または権限のあるサービス担当者が、メンテナンス作業中に共有できるように（および後で再度変更できるように）格納されます。
hpesupport		Hewlett Packard Enterprise テクニカルサポート。このアカウントは、システムのサービスおよび診断の機能を実行するために、Hewlett Packard Enterprise の担当者だけが使用します。

admin および hpepartner のパスワードは 8~32 文字の長さで、少なくとも大文字が 1 文字、小文字が 1 文字、数字が 1 文字、および英数字以外の文字が 1 文字含まれている必要があります。admin ユーザーは、Service Console および SP へのアクセスを制御するために、hpepartner のパスワードを設定することができます。

サービスプロセッサ用の Hewlett Packard Enterprise サポートのパスワードを設定するときは、hpesupport のパスワード作成に使用されるパスワード生成タイプを指定する必要があります。

パスワード生成タイプは、以下のいずれかです。

時間ベース – パスワードは、SP のクロックをベースとした時間により、毎時間リセットされます。

暗号化ベース – Hewlett Packard Enterprise サポート用に、暗号化されたパスワードを使用します。お客様は、Hewlett Packard Enterprise のサポート担当者が Hewlett Packard Enterprise からパスワードを取得できるように、暗号文 blob を送信する必要があります。

キーが再生成されるごとにパスワードは変更され、以前のキーから得られたパスワードは有効でなくなります。

デフォルト CLI ユーザーアカウント

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの初期化の際に、次の HPE 3PAR CLI ユーザーアカウントが作成されます。

ユーザー名	説明
3paradm	スーパー権限を持つユーザーアカウントです。Hewlett Packard Enterprise の担当者はこのユーザーアカウントを使用しません。このユーザーアカウントは変更または削除できます。 3paradm ユーザーアカウントを使用して、新しい CLI ユーザーを作成します。このユーザーのパスワードは変更する必要があります。
3parcim	Browse 権限を持つユーザーアカウントです。このユーザーアカウントは、HPE 3PAR 管理ツールで使用するために予約されています。ユーザーアカウント 3parcim とそのパスワードは、CIM (Common Interface Model) の API を使用する予定がある場合は、変更や削除を行わないでください。CIM を一切使用しない場合には、このアカウントは変更または削除してもかまいません。
3parbrowse	Browse 権限を持つユーザーアカウントです。Hewlett Packard Enterprise の担当者やサービスプロバイダーは、このユーザーアカウントにはアクセスできません。パスワードはランダムに作成され、SP のみに周知されています。このアカウントは、SP によってのみ使用され、変更または削除されません。
3paredit	編集権限を持つユーザーアカウントです。Hewlett Packard Enterprise の担当者やサービスプロバイダーは、このユーザーアカウントにはアクセスできません。パスワードはランダムに作成され、SP のみに周知されています。このアカウントは、SP によってのみ使用され、変更または削除されません。

インストール前のワークシート

このワークシートに記入して、サービスプロセッサの設定、HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの構成、HPE 3PAR StoreServ Management Console のインストールを含む、ソフトウェアのガイド付きセットアッププロセスを準備します。

❗ 重要:

ガイド付きセットアップ機能は1回だけ使用できます。インストールを再実行する必要がある場合（たとえば、ストレージシステムの再配置のため）、Hewlett Packard Enterprise のサポート担当者に連絡してください。ユーザー名とパスワードは安全な場所にだけ記録してください。

サービスプロセッサに関する情報:

	情報記録欄
名前	
IPv4 アドレス、サブネット、ゲートウェイ、および IPv6 アドレス（使用する場合）	
DNS サーバー（オプション） DNS サーバー アドレスを記録します。	
NTP サーバー（オプション） ネットワークタイムサーバーのアドレスを記録します。	
管理者アカウントパスワード ¹ (事前設定ユーザー名は admin。)	
HPE パートナーアカウントのパスワード ¹ (事前設定ユーザー名は hpepartner。)	
リモートサポートプロキシ（オプション） プロキシサーバー名、IP アドレス、およびポートを記録します。	
ポリシーサーバー（オプション）	
アラートの電子メール通知（オプション） メールのホスト名、IP アドレス、およびドメインを記録します。	

¹ パスワードは 8~32 文字の長さで、少なくとも大文字が 1 文字、小文字が 1 文字、数字が 1 文字、および英数字以外の文字が 1 文字含まれている必要があります。

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムに関する情報:

	情報記録欄
シリアル番号 ¹	
名前	
IPv4 アドレス、サブネット、ゲートウェイ、および IPv6 アドレス（使用する場合）	
DNS サーバー（オプション） DNS サーバー アドレスを記録します。	
NTP サーバー（オプション） ネットワークタイムサーバーのアドレスを記録します。	
管理者アカウントパスワード ² (事前設定ユーザー名は 3paradm。)	
HPE 3PAR StoreServ 8000 ストレージ - インストールサイト情報	
会社名	
住所	
HPE 3PAR StoreServ 8000 ストレージ - サポートの連絡先情報	
氏名	
会社名	
電子メール	
電話	
ファックス（オプション）	

¹ コントローラーノードエンクロージャーのシリアル番号を見つけます。

² パスワードは最長 31 文字に制限されますが、英数字および以下の特殊文字を含めることができます: プラス (+)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)、アスタリスク (*) および "at" 記号 (@)。

HPE 3PAR StoreServ Management Console に関する情報 :

	情報記録欄
管理者アカウントのユーザー名 ¹	
管理者アカウントのパスワード ²	

¹ ユーザー名は、任意の文字（UTF-8 を含む）を使用する 2 文字以上の文字列で、スペースが含まれてはいけません。

² パスワードは 8~32 文字で、少なくとも大文字が 1 文字、小文字が 1 文字、数字が 1 文字、および英数字以外の文字が 1 文字含まれている必要があります。

サービスプロセッサのセットアップ

このタスクについて

プロセスの概要

1. [VSP の展開](#)(15 ページ)
2. [サービスプロセッサへの接続](#)(17 ページ)
3. [サービスプロセッサのセットアップ](#)(17 ページ)
4. [HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの SC への追加](#)(18 ページ)
5. [SSMC のインストール](#)(18 ページ)
6. [HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの SSMC への追加](#)(21 ページ)
7. [ホストの作成](#)(22 ページ)
8. [仮想ボリュームの作成](#)(22 ページ)
9. [仮想ボリュームのホストへのエクスポート](#)(22 ページ)

VSP の展開

VMware を使用した仮想 SP の展開

始める前に

日付と時刻は、ESXi サーバー上で正しく設定する必要があります。

このタスクについて

△ 注意:

SP が管理しているのと同じ HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムからストレージを使用しているホストに VSP をインストールしないでください。そのようにすると、ストレージへの接続が不可能な場合にアレイを適切に管理できなくなる可能性があります。VMware サーバー上で VSP をプロビジョニングし、VSP が割り当てられた VMware サーバーのローカルブートディスクを使用すること、HPE 3PAR StoreServ LUN から起動しないこと、を確認してください。

△ 注意:

VMware vMotion はサポートされていません。vMotion を使用して、物理サーバー間で VSP を移行しないでください。このアプリケーションを使用すると、通信障害が発生して、システムサービスが中断する可能性があります。

OVF ファイルをインポートすることで、VMware に VSP をデプロイできます。

VMware vSphere のシステム要件とインストールプロセスについては、次の Web サイトで VMware vSphere のマニュアルを参照してください。

<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html>

手順

1. VMware vSphere Client を起動し、**IP アドレス/名前**リストから vSphere Server の IP アドレスを選択します。
2. ユーザー名とパスワードを入力し、次に**ログイン**をクリックします。
3. **ファイルメニュー**で **OVF テンプレート**を**デプロイ**をクリックします。
4. 展開する OVF ファイルを入力または選択し、**開く**をクリックします。
OVF の展開ウィザードが開きます。

5. ソース画面で**ファイル**または **URL** から**デプロイ**フィールドに正しいファイルが入力されていることを確認し、**次へ**をクリックします。
6. 名前と場所画面で、仮想 SP の名前（デフォルト名は OVF ファイルの名前と同じ）を変更し、**次へ**をクリックします。
7. リソースプール画面で、テンプレートを展開するリソースプールを選択します。
8. ストレージ画面で、仮想マシンファイルの保存先を選択します。
9. ディスクのフォーマット画面で、仮想ディスクの格納に使用するプロビジョニングのタイプを選択してクリックし（デフォルトはシンプロビジョニング）、**次へ**をクリックします。
10. 終了準備の完了画面で、**デプロイ後にパワーオン**を選択し、次に**終了**をクリックします。展開には、数分かかることがあります。
11. VM が起動したら、**admin**（パスワードなし）としてログインし、ネットワーク IP アドレスを設定します。

DHCP を使用した仮想 SP のセットアップ

手順

1. テンプレートから VM を展開します。
2. 次のような方法で、どの DHCP アドレスが使用されているかを確認します。
 - vSphere client の概要ページで調べます。
 - [サービスプロセッサへの接続\(17 ページ\)](#)の手順に従ってガイド付きセットアップを開始します。

Hyper-V での仮想 SP の展開

始める前に

- 4GB のメモリで構成された VM をホストするのに十分なメインメモリを備えた Windows Server 2012/2012 R2/2016
- ローカルドライブに保存された Hyper-V 展開インストールファイル
- Hyper-V サーバーで日付と時刻が正しく設定されている必要があります。

このタスクについて

注意:

SP が管理しているのと同じ HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムからストレージを使用しているホストに VSP をインストールしないでください。そのようにすると、ストレージへの接続が不可能な場合にアレイを適切に管理できなくなる可能性があります。Hyper-V サーバー上で VSP をプロビジョニングし、VSP が割り当てられた Hyper-V サーバーのローカルブートディスクを使用すること、HPE 3PAR StoreServ LUN から起動しないこと、を確認してください。

Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2016 での仮想 SP の展開

手順

1. SP Hyper-V 展開の実行可能ファイルを、管理者として実行します。
2. **インストール**をクリックします。
3. 作成する VM の名前を入力します。
4. スイッチに関連付けられたインデックスを入力して、使用可能な仮想ネットワークスイッチからインターフェイスを選択します。（複数の仮想スイッチが設定されている場合のみ使用可能）
5. VM が設定されたら、**Enter** キーを押して続行します。
6. Hyper-V マネージャーで、VM を選択し、操作ペインで**開始**をクリックします。
7. VM が起動したら、**admin**（パスワードなし）としてログインし、VM の IP アドレスをメモします。

8. ブラウザーで `https://<sp_ip_address>:8443` の形式を使用して Service Console に接続します。ここで、<sp_ip_address>は前の手順でメモした IP アドレスです。
9. サービスプロセッサのセットアップ(17 ページ)の手順に従ってガイド付きセットアップを開始します。

サービスプロセッサへの接続

手順

1. 次の SP IP アドレスにアクセスします。 `https://<SP_IP_address>:8443`

注記:

上記の URL を入力したときにブラウザーから警告を受信する場合は、ブラウザーの警告(30 ページ)を参照してください。

DHCP またはローカルネットワークによって割り当てられた IP アドレスを使用して SP に接続すると、ボタンが 1 つある **Connect Service Processor** ページが表示され、最初の手順としてガイド付きセットアップウィンドウが表示されます。

2. **続行** をクリックして、ガイド付きセットアップウィンドウを閉じます。
3. **Connect Service Processor** ボタンをクリックします。

Service Processor Network Configuration ダイアログが表示されます。

4. ネットワークが SP 用にまだ設定されていない場合は、ホスト名、IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイの入力を求められます。**OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして変更を適用せずに **Connect Service Processor** ページに戻ります。

注記:

ホスト名 `localhost` は使用できません。

5. SP の ネットワーク構成 ダイアログで割り当てた IP アドレスを参照し、次に サービスプロセッサのセットアップ(17 ページ)の手順に従います。

サービスプロセッサのセットアップ

手順

1. 次の SP IP アドレスにアクセスします。 `https://<SP_IP_address>:8443`

注記:

上記の URL を入力したときにブラウザーから警告を受信する場合は、ブラウザーの警告(30 ページ)を参照してください。

ボタンが 1 つあるサービスプロセッサのセットアップページが表示され、最初の手順のためにガイド付きセットアップウィンドウが開きます。

2. **続行** をクリックして、ガイド付きセットアップウィンドウを閉じます。
3. サービスプロセッサのセットアップ をクリックします。
4. 表示されたダイアログの指示に従います。新しい SP を設定するか、リカバリファイルを使用して SP を復元するかを選択できます。

注記:

SP を設定するときは、NTP サーバーを使用して時刻を設定することを強くお勧めします。

5. セットアップが完了したら、SP を再起動し、セットアップ中に設定した IP アドレスを使用して SP に接続します。

ヒント：セットアップがエラーにより完了していない場合、チェックリストにはエラーと、そのエラー状態に関連する、セットアップダイアログのセクションへのリンクが表示されます。

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの SC への追加

始める前に

- 初期化済みのストレージシステムを追加するには、そのシステムの管理者の認証情報が必要です。
- 初期化されていないストレージシステムを追加するには、StoreServ のシリアル番号が必要で、SP と StoreServ は同じサブネットを使用する必要があります。

手順

1. Service Console のメインメニューのストレージシステム見出しの下でシステムを選択します。
2. アクションメニューから、システムの追加を選択します。
3. 表示されたダイアログの指示に従います。

SSMC のインストール

このタスクについて

HPE 3PAR SSMC サーバーは、さまざまな Windows および Linux 環境で利用できます。サイレントインストールオプションも利用できます。

△ 注意:

SSMC は、ローカル システムにインストールする必要があります。SSMC を SP にインストールしようとしないでください。

SSMC インストールパッケージのダウンロードについては、次の Web サイトで 3PAR SSMC を検索してください。

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

前提条件

- Microsoft Windows システムでは、管理者特権が必要で、Administrators グループのメンバーである必要があります。
- Linux システムでは、スーパーユーザーのアクセス権が必要です。
- SSMC をインストールする前に、以下のセキュリティ設定を構成してください。
 - **ファイアウォール**
 - 管理対象の StoreServ ストレージシステムと SSMC が通信できるように、インバウンドの TCP ポート 8443（デフォルト）をオープンするか、またはインストール時に選択したポート番号をオープンする必要があります。
 - **LDAP**
 - 管理対象のストレージシステムを追加する前に、HPE 3PAR StoreServ ストレージアレイに接続する認証方法として LDAP サーバーを構成します。ロールのマッピングは、**super-map**、**service-map**、**edit-map**、**browse-map**、**create-map**、**basic_edit-map**、**3PAR_AO-map**、および **3PAR_RM-map** です。

SSMC インストールの最小構成

- Core i5 デュアルコア CPU
- 4 GB RAM – SSMC サーバーに接続されているアレイを最大 3 台サポート
- 2 GB の空きディスク容量
- サポートされている 64 ビットオペレーティングシステム (サポートされているホストプラットフォーム (19 ページ)を参照)

SSMC インストールの推奨される構成

- Core i5 または i7 クアッドコア CPU
- 8 GB RAM – 最大 16 台のアレイを SSMC サーバーに接続する場合に推奨
- 2 GB の空きディスク容量
- サポートされている 64 ビットオペレーティングシステム (サポートされているホストプラットフォーム (19 ページ)を参照)

追加の推奨事項

- 大規模なマルチアレイ構成では、RAM がもっと必要な場合があります。UI のレスポンス時間は、コアが多いことによる利点があります。
- SSMC サーバーは、システム RAM の最大 75%を使用するようにチューニングされています。これは、マシンにインストールされているその他のソフトウェアに影響する可能性があります。SSMC は、専用マシンにインストールすることをお勧めします。
- SSMC はラップトップのパワーセービング機能をサポートしていないため、ラップトップにインストールすることはお勧めしません。

サポートされているホストプラットフォーム

ハイパーバイザーのゲスト仮想マシン用のオペレーティングシステム

- Windows 2008 R2
- Windows Server 2012 および 2012 R2
- Red Hat Enterprise Linux 6.5
- Red Hat Enterprise Linux 7.X

ハイパーバイザー

- ESXi 5.5/6.0/6.5
- Hyper-V 2012/2012 R2/2016

物理サーバーおよびワークステーション用のオペレーティングシステム

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012 および 2012 R2
- Windows 7
- Windows 8.1
- Red Hat Enterprise Linux 6.5
- Red Hat Enterprise Linux 7.0

タブレット

- Chrome ブラウザーを使用する iPad

Windows 環境への SSMC のインストール

手順

1. ご使用のローカルシステムでセットアップファイルをダブルクリックして、インストールウィザードを起動します。
2. はじめに画面を読んで、次へをクリックします。

3. ライセンス契約を受け入れ、**次へ**をクリックします。
4. 以前のデータを保持するには、**はい**を選択します。以前のすべての SSMC データを削除するには、**いいえ**を選択します。(以前の SSMC インストールのデータがある場合にのみ表示されます。)
5. インストール先のターゲットフォルダーを選択するか、またはデフォルトのフォルダーを受け入れ (推奨)、**次へ**をクリックします。

概要画面に、選択した設定と、インストールに必要なディスクスペースの量が表示されます。

6. これらの設定を受け入れてインストールを続行するには、**インストール**をクリックします。これらの設定を変更するには、変更する設定を含む画面が表示されるまで、**戻る**をクリックします。

システムがインストールの最低限の要件を満たしていない場合、インストーラーは、エラーメッセージを表示します。

インストールしています画面に、インストールの進行状況が表示されます。

インストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。

このシステムの保護にファイアウォールを使用している場合は、インバウンドの SSMC TCP ポート 8443 が外部のシステムからアクセス可能であることを確認してください。

7. **次へ**をクリックしてインストールを完了します。
8. **完了**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

システムがインストールの最低限の要件を満たしていない場合、インストーラーは、エラーメッセージを表示します。

Windows でのサイレントインストールオプションの使用

手順

1. デフォルト以外の設定を使用して SSMC をインストールするには、コマンドプロンプトのウィンドウを開いてレスポンスファイルを生成してから、**-r <response file>** オプションを指定してインストーラーを実行します。
2. デフォルトの設定を使用して SSMC サーバーをインストールするには、コマンドプロンプトのウィンドウを開き、**-i silent** オプションを使用してインストーラーを実行します。
3. 手順 1 で生成したレスポンスファイルを使用して SSMC サーバーをサイレントインストールするには、コマンドプロンプトのウィンドウを開き、**-i silent -f <response file>** オプションを指定してインストーラーを実行します。

Linux 環境への SSMC のインストール

手順

1. 以下のコマンドを実行して、インストールを開始します。

```
sh HPESSMC-<version number>-linux-x86_64.bin.HPb
```

または

以下のコマンドでファイルのパーミッションを変更し、インストールを開始することもできます。

```
chmod 775 HPESSMC-<version number>-linux-x86_64.bin.HPb
```

```
./HPESSMC-<version number>-linux-x86_64.bin.HPb
```

2. **はい**を入力して、表示されているエンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) に同意します。
3. ブラウザーがアクセスする SSMC のコンピューター上のセキュアな TCP ポートの番号を入力するか、または **Enter** キーを押してデフォルトのポート 8443 を受け入れます (推奨)。

概要のメッセージに、選択した設定と、インストールに必要なディスクスペースの量が表示されます。

システムがインストールの最低限の要件を満たしていない場合、インストーラーは、エラーメッセージを表示します。

Linux でのサイレントインストールオプションの使用

手順

1. 以下の Linux コマンドを使用して、bin.HPb パッケージからファイルを展開します。

```
sh HPESMC-<version number>-linux-x86_64.bin.HPb --tar xvf
```

これにより、hpesmc-<version number>-x86_64.rpm ファイルが展開されます。

2. 以下の Linux コマンドを実行して製品をインストールします。

```
chmod 775 hpesmc-<version number>-x86_64.rpm
```

```
rpm -i hpesmc-<version number>-x86_64.rpm
```

デフォルトのセキュアなポート番号を変更する場合は、インストール後に手動で変更する必要があります。

3. インストールされたら、以下の Linux コマンドを入力してサービスを起動します。

```
service ssmc start
```

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの SSMC への追加

始める前に

これが初めて SSMC にログインする場合は、作業を続行する前に、[HPE 3PAR SSMC へのログイン](#)(24 ページ)の手順に従ってください。

手順

1. SSMC ログイン画面で、**Administrator Console** を選択し、SSMC 管理者の認証情報を入力して、**ログイン**をクリックします。
2. **アクション>追加**の順に選択します。
3. **追加 ストレージシステム**ダイアログボックスで、追加対象のストレージシステムの DNS 名または IP アドレスを、カンマまたはスペースで区切って入力します。(または、各システム名または IP アドレスの後ろで **Enter** を押します。)

複数のストレージシステムを同時に追加する場合は、認証情報が同じである必要があります。

注記:

各 SSMC サーバーに、最大 16 個の HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムを追加できます。

4. ストレージシステムの認証情報を入力します。
5. ストレージシステムにすぐに接続するには、**システムへ接続**チェックボックスを選択します。
このチェックボックスを選択しなかった場合は、システムを追加した後で、ストレージシステムを選択し、**アクション>接続**を選択して接続できます。
6. **追加**をクリックしてシステムを追加し、ストレージシステム画面に戻ります。
7. 証明書の受け入れが必要であることを状態説明の値が示している場合は、ストレージシステムを選択してから、**アクション>証明書の承諾**を選択し、次に**承諾とキャンセル**をクリックします。
ストレージシステムへの接続が確立されると、詳細パネルの**システム状態**カラムに緑色の四角いアイコンと、**接続済み**というテキストが表示されます。
8. (オプション) 別のログイン認証情報を使用するストレージシステムを追加するには、上記の手順を繰り返します。
9. ストレージシステムの追加が終了したら、セッションのアイコン (👤) **ログアウトして閉じる**をクリックし、次には**はい**をクリックして SSMC ログイン画面に戻ります。

ホストの作成

始める前に

SSMC にホストを追加する前に、まずホストを構成する必要があります。**Hewlett Packard Enterprise Support Center** で入手できる StoreServ のインストールマニュアル内の指示と、ご使用のプラットフォームの実装ガイドを参照してください。

手順

1. SSMC メインメニューの Block Persona セクションから**ホスト**を選択します。
2. ホストページで、**+ ホストの作成**をクリックするか、またはアクションメニューから**作成**を選択します。
3. **作成 ホスト**ダイアログの一般セクションで、ホスト名を入力し、ホストを作成するシステム、ホストがメンバーになるホスト・セット（存在する場合）、およびホストのオペレーティングシステム（OS）を選択します。Host Persona は、ホストのオペレーティングシステムに応じて自動的に選択されます。
4. パスセクションで、パスを選択する（リストにある場合）か、**FC の追加**または**iSCSI の追加**をクリックしてポートを追加します。
5. 選択が完了したら、**作成**をクリックし、アクションを開始してダイアログを閉じるか、または**作成 +**をクリックし、アクションを開始してダイアログを開いたままにします。

仮想ボリュームの作成

手順

1. SSMC メインメニューの Block Persona セクションから、**仮想ボリューム**を選択します。
2. 仮想ボリュームページで **+ 仮想ボリュームの作成**をクリックするか、アクションメニューから**作成**を選択します。
3. **作成 仮想ボリューム**ダイアログの一般セクションで、仮想ボリュームの名前、仮想ボリュームが存在するシステム、プロビジョニングのタイプ、作成される CPG、および VV のサイズを入力します。
4. (オプション) 仮想ボリュームの作成時または後日エクスポートするときに VV をホストにエクスポートできます。
5. 選択が完了したら、**作成**をクリックし、アクションを開始してダイアログを閉じるか、または**作成 +**をクリックし、アクションを開始してダイアログを開いたままにします。

仮想ボリュームのホストへのエクスポート

手順

1. SSMC メインメニューの Block Persona セクションから、**仮想ボリューム**を選択します。
2. **仮想ボリューム**ページで、アクションメニューから**エクスポート**を選択します。
3. 表示されたダイアログの指示に従います。

HPE 3PAR Service Console へのログイン

手順

1. サービスプロセッサの初期化後、次の SP の IP アドレスで Service Console にログインします。
`https://<SP_IP_address>:8443`

注記:

上記の URL を入力したときにブラウザから警告を受信する場合は、**ブラウザの警告**(30 ページ)を参照してください。

2. 初期化中に設定した admin または hpepartner の認証情報を入力し、**ログイン**をクリックします。
デフォルトでは、**サービスプロセッサ**の概要画面が表示されます。

HPE 3PAR SSMC へのログイン

このタスクについて

デスクトップでプログラムのアイコンをダブルクリックして、SSMC を開きます。ご使用のブラウザが次の URL を開きます。<https://localhost:8443>

注記:

上記の URL を入力したときにブラウザから警告を受信する場合は、[ブラウザーの警告](#)(30 ページ)を参照してください。

インストール後に初めて SSMC を開くときは、管理者コンソールの管理者アカウントのユーザー名およびパスワードを設定する必要があります。このアカウントは、管理コンソールにアクセスするためにのみ使用されます。

手順

1. 表示されたダイアログの**認証情報を設定**をクリックします。
2. **設定 管理者認証情報**ダイアログで、管理コンソールの管理者アカウントのユーザー名を入力します。
3. このアカウントのパスワードを入力します。パスワードは 8~32 文字で、少なくとも大文字が 1 文字、小文字が 1 文字、数字が 1 文字、および英数字以外の文字が 1 文字含まれている必要があります。
4. 確認のため、パスワードを再度入力します。
5. **設定**をクリックします。

ホストおよび仮想ボリュームの概念

この章では、HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムのホストと仮想ボリュームの簡単な説明を提供します。詳細は、*HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド*を参照してください。

ホストの概念

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムは、ホストをイニシエータポートの WWN または iSCSI 名のセットとして扱います。ストレージシステムのポートに物理的に接続されているホストは自動的に検出されます。

ホストを物理的に接続する前に、新しい WWN または iSCSI 名をホストパスに割り当てることができます。これらの名前は、システムコントローラーノード上のターゲットポートに関連付けられる必要はありません。これにより、新しいホストの接続後に手動で再構成を行う必要がない、プラグアンドプレイ機能を実現できます。

FCoE 接続は、CNA アダプターを使用することで HPE 3PAR StoreServ 7000、8000、10000、および 20000 ストレージシステムでサポートされています。CNA ポートは、FCoE ポートまたは iSCSI ポートとして使用するように構成できます。

有効なホストと無効なホスト

有効なホストは、ストレージシステムポートに接続されており、ポート接続を持つものとして HPE 3PAR オペレーティングシステムに認識されています。有効なホストにはエクスポートされたボリュームが多数存在することがあります。

無効なホストは、HPE 3PAR OS に認識されていますが、ポート接続がないものと見なされています。この状態は、ホストがオフラインのとき、ホストがシステムポートから切断されているとき、またはエラーにより発生することがあります。

Host Persona

Host Persona は、FC ポートまたは iSCSI ポートに接続するホストに許可する動作のセットで、デフォルトのホスト動作と異なります。ホストに Persona を割り当てると、異なる応答が必要な複数のホストタイプを同じストレージシステムポートで共有できます。たとえば、Windows、Linux、AIX オペレーティングシステムが実行されているホストが、同じストレージシステムポートに接続できます。

仮想ボリュームの概念

ユーザーは、共通プロビジョニンググループ内に仮想ボリュームを作成して、その仮想ボリュームをホストへエクスポート（提供）します。仮想ボリュームの作成後、そのサイズを最大サイズまで拡張できます。最大サイズは HPE 3PAR OS のバージョンによって異なりますが、16 TiB を超えることはできません。

(VV) 仮想ボリュームを作成するときに使用するプロビジョニングのタイプを選ぶ必要があります。

フルフルプロビジョニングされた仮想ボリュームは、作成時に割り当てられたスペースが、仮想ボリュームの全容量（サイズ）であるボリュームです。

たとえば、10 GiB の仮想容量を持つ、フルプロビジョニングされた仮想ボリュームを作成すると、ストレージシステムは 10 GiB のスペースをフルに割り当てます。

シンシンプロビジョニングされた仮想ボリュームは、作成時に割り当てられるスペースが最小限であるボリュームです。仮想ボリュームがホストにエクスポートされた後、ホストへの書き込みにより、ユーザー定義のサイズ制限値に達するまで、仮想ボリュームサイズは自動的に拡張されます。

たとえば、10 GiB の仮想容量を持つ、シンプロビジョニングされた仮想ボリュームを作成すると、ストレージシステムは 0.625 GiB（0.5 GiB のユーザースペースと 0.125 GiB の管理スペース）だけを最初に割り当てます。仮想ボリュームがホストにエクスポートされ、ホストへの書き込みによりデータが拡張された後、10 GiB の制限値に達するまで、ストレージシステムは仮想容量を自動的に拡張します。仮想容量の管理に役立つ、自動アラートおよびユーザー定義アラートがあります。

ストレージシステム上にシンプロビジョニングされた仮想ボリュームを作成するには、HPE 3PAR Thin Provisioning ソフトウェアのライセンスが必要です。

重複排除 – シン重複排除された仮想ボリュームは、インライン重複排除のあるシンプロビジョニングされた仮想ボリュームです。インライン重複排除は、SSD 物理ドライブの寿命を延ばすために役立つように、重複した書き込みを削除します。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポート登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の資格を確認および更新して、契約および保証をプロフィールにリンクするには、次に示す Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Hewlett Packard Enterprise Worldwide の連絡先	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス	http://www.hpe.com/storage/spock
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブ ケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts> (英語)

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

ブラウザの警告

このタスクについて

サービスプロセッサの IP アドレスに接続するときに、この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります (Internet Explorer)、またはこの接続ではプライバシーが保護されません (Google Chrome)、またはこの接続は安全ではありません (Mozilla Firefox) などの、ブラウザの警告が表示されることがあります。このサイトで処理を続行するには、ご使用のブラウザに関連する以下の手順に従ってください。

ご使用のブラウザ用の手順に従ってください。

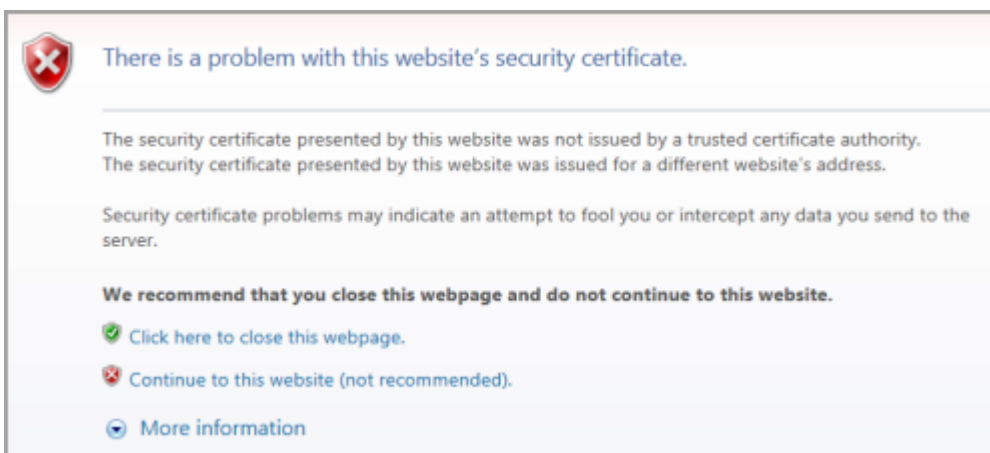
手順

1. [Microsoft Internet Explorer ブラウザーの警告の削除](#)(30 ページ)
2. [Google Chrome ブラウザーの警告の削除](#)(30 ページ)
3. [Mozilla Firefox ブラウザーの警告の削除](#)(31 ページ)

Microsoft Internet Explorer ブラウザーの警告の削除

手順

1. 警告を永続的に削除することをしないでこのサイトの処理を続行するには、このサイトの閲覧を続行する (推奨されません) をクリックします。

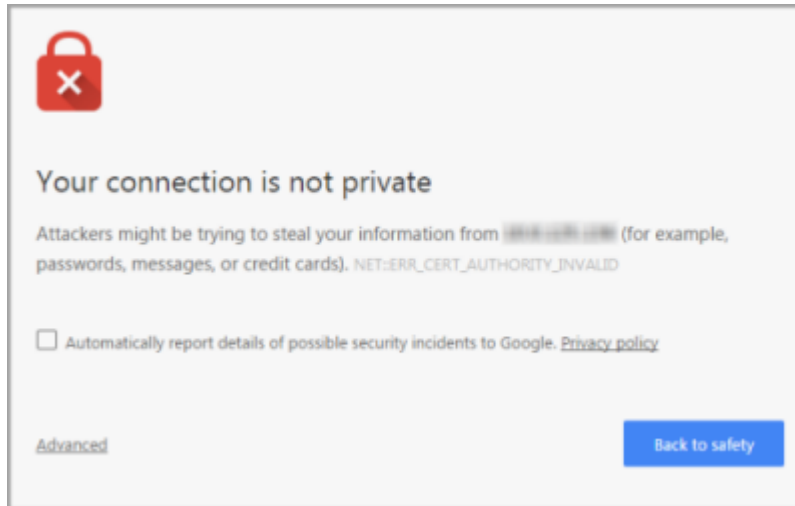


2. 将来的に、このサイトの警告を削除するには、以下の手順を実行します。
 - a. アドレスバーで、証明書のエラーのテキストをクリックします。
 - b. 証明書の表示リンクをクリックします。
 - c. 証明書のインストール...をクリックしてから、証明書のインポートウィザードの指示に従います。

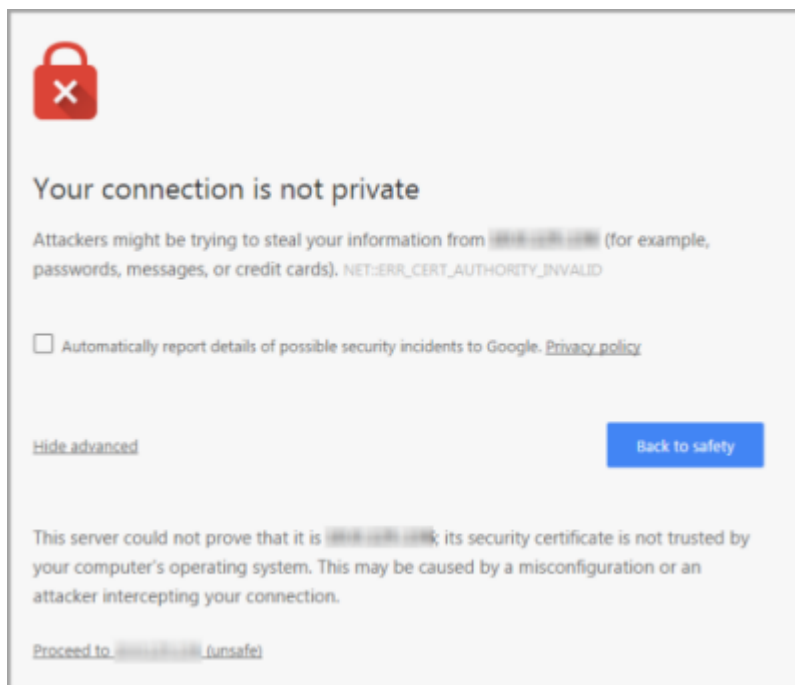
Google Chrome ブラウザーの警告の削除

手順

1. 警告を永続的に削除することをしないでこのサイトの処理を続行するには、以下の手順を実行します。
 - a. 詳細設定リンクをクリックします。



- b. <sp_ip_address>にアクセスする（安全ではありません）をクリックします。

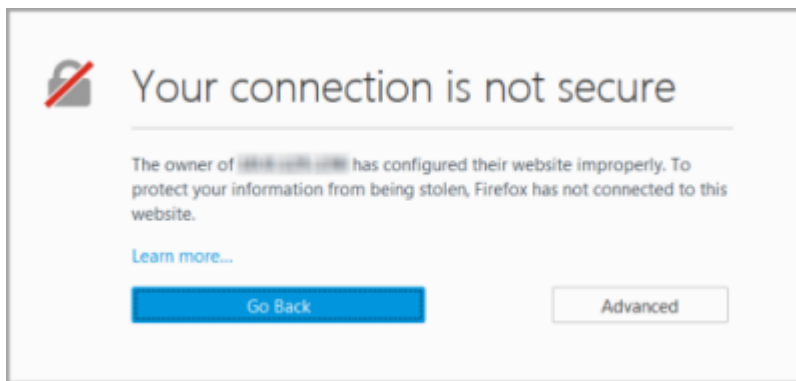


2. 将来的に、このサイトの警告を削除するには、以下の手順を実行します。
- アドレスバーの右端の3つの横線のアイコンをクリックして**設定**を選択します。
 - 詳細設定を表示...** リンクをクリックします。
 - ネットワークの見出しの下の**プロキシ設定の変更...**をクリックします。
 - セキュリティ**タブを選択します。
 - 信頼済みサイト**のゾーンをクリックしてから、**サイト**をクリックします。
 - 信頼済みサイトのURLを入力し、続いて**追加**をクリックします。

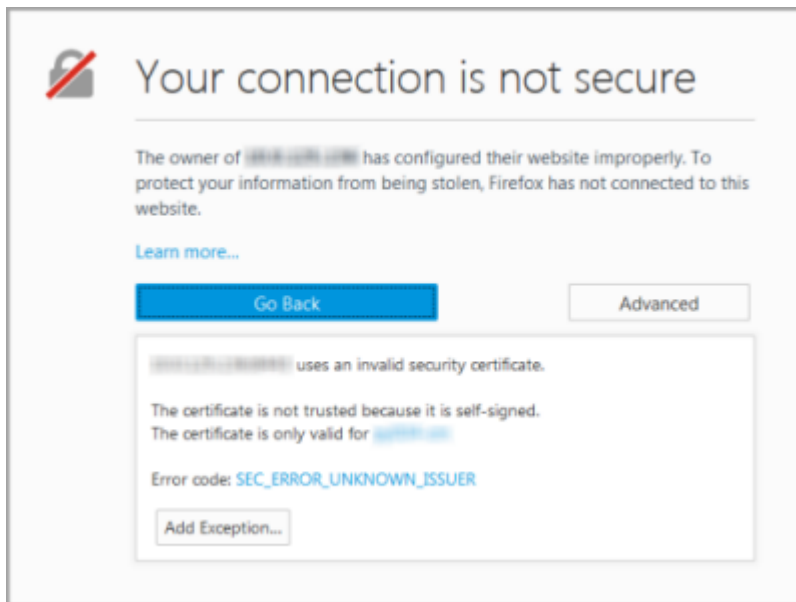
Mozilla Firefox ブラウザーの警告の削除

手順

- 警告を永続的に削除することをしないでこのサイトの処理を続行するには、以下の手順を実行します。
 - 詳細設定**リンクをクリックします。



- b. 例外を追加...をクリックします。



2. 将来的に、このサイトの警告を削除するには、以下の手順を実行します。
- a. 詳細設定をクリックします。
 - b. セキュリティ例外を追加をクリックします。
 - c. 次回以降にもこの例外を有効にするを選択します。
 - d. セキュリティ例外を承認をクリックします。

テキストベースのユーザーインターフェイス

テキストベースのユーザーインターフェイス (TUI) は、サービスプロセッサ (SP) のユーティリティであり、制限付きの SP の設定および管理が可能で、接続の StoreServ の CLI へのアクセスも可能です。TUI の目的は、SC GUI と重複した機能を持つことではなく、SC GUI が使用できなくなる可能性のある問題を解決する手段を得ることです。

VMware vSphere クライアントから、または SSH を使用した端末エミュレーターによって開かれた Linux コンソールに、最初にログインする際に TUI が現れます。SP の初期化の前に、ユーザー名 `admin`、パスワードなしで TUI にログインできます。SP の初期化後に TUI にアクセスするには、`admin` と初期化中に作成したユーザーのパスワードで、または、`hpepartner` ユーザーとしてログインします。`admin` および `hpepartner` ユーザーは、Linux コンソールにログインするときは、自動的に TUI が使用されます。

サービスプロセッサの ID とモデル名は常に、見出しに表示されます。SP を初期化する前の SP ID は、`SP00000` と表示されます。初期化後は、初期化中に SP に割り当てられた実際の ID が表示されます。

TUI の操作

オプションに関連付けられているダイアログにアクセスするには、そのオプションに関連付けられている番号のキーを押します。たとえば、**ネットワークの構成**オプションを選択するには、**1** キーを押します。

注記:

TUI は、キーボードのテンキーを使用して入力した番号は使用できません。

上/下矢印キーを使用して項目を選択します。現在選択されているオプションが強調表示されます。**Enter** キーを押すと、現在強調表示されているオプションが選択されます。

コンソールログイン画面に戻るには、このオプションが表示されている画面で **X** キーを押します。

テキストベースのユーザーインターフェイスのタスク

メインメニューのオプション

SP の初期化の前に、TUI ユーティリティは、次のオプションを提供します。

1. ネットワークの構成
2. SP サービスのシャットダウン/開始
3. SP の再起動
4. SP のシャットダウン
5. SP の初期セットアップでリモートサポートを無効化
6. SP の初期セットアップで本番環境サーバーに接続/SP の初期セットアップで初期テストサーバーに接続
7. 日付と時刻の設定

初期化後、TUI ユーティリティは、次のオプションを提供します。

1. ネットワークの構成
2. SP サービスのシャットダウン/開始
3. SP の再起動
4. SP のシャットダウン
5. 安全なパスワード管理
6. ファイアウォール許容モードの有効化/無効化
7. Storeserv 用の対話型 CLI
8. 日付と時刻の設定

ネットワークの構成

手順

1. メインメニューで **1** を入力して **1 == Configure Network** を選択します。
2. **ネットワークの構成**画面が表示されたら、ネットワーク設定が構成されていないサービスプロセッサに対して **Enter** を押します。
3. ネットワークの設定がすでに構成されている場合、設定を変更できることを示すメッセージが表示されます。(絶対に必要である場合を除き、推奨できません。) 設定を変更する場合は、**Enter** を押します。変更しない場合は、**X** キーを押してメインメニューに戻ります。
4. サービスプロセッサのホスト名、IP アドレスを入力します。または **Escape** を押して中断し、入力中の変更を破棄します。
5. サブネットマスクを入力します。または **Escape** を押して中断し、入力中の変更を破棄します。
6. デフォルトゲートウェイを入力します。または **Escape** を押して中断し、入力中の変更を破棄します。
7. **Y** または **N** キーを押して設定を確認します。
8. 「ネットワークの構成の成功」というメッセージが表示されたら、**X** キーを押してメインメニューに戻ります。

SP サービスのシャット ダウン/起動

手順

- TUI のメインメニューで **2** を入力して **2 == Shutdown SP services** または **2 = start SP services** を選択します。

SP サービスのシャットダウンを選択すると、ご使用の Web ブラウザーから Service Console の GUI にアクセスできなくなります。SP サービスの起動を選択すると、ご使用の Web ブラウザーから Service Console の GUI を使用して SP の管理が可能になります。

サービスプロセッサの再起動

手順

- TUI のメインメニューから **3** を入力して **3 == Reboot SP** を選択します。

このオプションは、サービスプロセッサを再起動します。TUI にアクセスする場合、コンソールに管理者として再度ログインする必要があります。SP が初期化されるまでパスワードなしの管理者としてログインできません。初期化した後は、初期化中に設定した管理者の認証情報でログインする必要があります。

サービスプロセッサのシャットダウン

手順

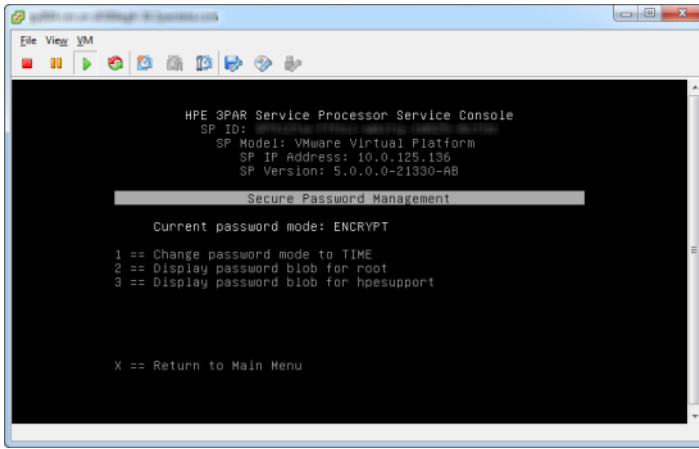
- TUI のメインメニューから **4** を入力して **4 == Shutdown SP** を選択します。

このオプションは、サービスプロセッサをシャットダウンして、コンソールを終了します。SP に再びアクセスするには、SP を手動で再起動する必要があります。

安全なパスワード管理へのアクセス

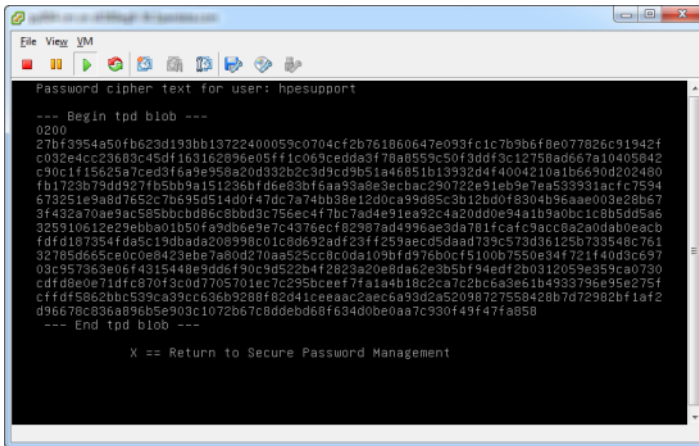
手順

1. TUI のメインメニューから **5** を入力して **5 == Secure Password Management** を選択します。
現在のパスワードモード (**TIME** または **ENCRYPT**) と共にモードを変更するオプションが表示されます。
暗号化されたパスワードについては、root または hpesupport のパスワード blob を表示する追加のオプションがあります。



2. rootまたはhpesupportアカウントのパスワード blobを表示するオプションを選択すると、指定されたユーザー用のパスワード暗号文が表示されます。暗号文 blob全体をコピーし、それをHewlett Packard Enterpriseに送信することでHewlett Packard Enterpriseサポートがパスワードを取得します。

暗号文をコピーする場合に、「---Begin tpd blob---」で始まり「---End tpd blob---」で終わるテキストを、これらの2行を含んでコピーします。



セットアップ前のリモートサポートの無効化

手順

1. メインメニューから5を入力して**5 == Disable Remote Support on initial SP Setup**を選択します。
2. **y**を入力して**Y = Yes**を選択します。

用語

このセクションでは、ダイアログおよびドキュメントで使用される用語について説明します。

連絡先

Service Console には、Hewlett Packard Enterprise の Remote Support への連絡先、およびローカル通知用電子メールの連絡先を管理できる連絡先ページがあります。各システムは、Hewlett Packard Enterprise がシステム関連の問題に関する連絡先として使用するためのシステムサポート担当者として少なくとも 1 人の連絡先を割り当てる必要があります。

詳細情報：

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド*を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

仮想ボリュームのエクスポート

この関連付けの特性は、VLUN を作成する際に定義されます。VLUN は、VLUN テンプレートまたはアクティブ VLUN として表される仮想ボリュームと LUN のペアリングです。VLUN を作成すると、システムは、エクスポートルールを確立する VLUN テンプレートと、ホストに LUN または接続されたディスクデバイスとして認識されるアクティブな VLUN の両方を生成します。

特定のシステム構成でホストごとにサポートされる VLUN の最大数については、次の HPE SPOCK の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/storage/spock>

詳細情報：

[仮想ボリュームの概念](#)(25 ページ)

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド*を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

ホスト

ホストは、WWN 名または iSCSI 名として定義された、システム上の複数のポートへのパスまたはパスのセットです。

詳細情報：

[ホストの概念](#)(25 ページ)

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド*を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

Management Console

HPE 3PAR StoreServ Management Console は、HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムの監視、管理、および構成用のグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) です。Service Console とは別にインストールする必要があります。

ノード、コントローラーノード

コントローラーノードは、HPE 3PAR StoreServ アーキテクチャーの高性能データ移動エンジンです。これは、他のコントローラーノードと連携してシステム内のデータをキャッシュおよび管理し、ホストに対してストレージシステムの一貫した仮想化ビューを提供する個々のデバイスです。コントローラーノードはシャーシの背面にあるエンクロージャーに格納され、下から上へ 0 から始まる番号が付けられます。ノードの数は、ご使用の StoreServ モデルによって異なります。

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムのコントローラーノードは、FC、ギガビットイーサネット、および iSCSI ポートを使用して、ストレージサーバーを、ご使用のネットワーク、ホストコンピューター、ストレージサーバーコンポーネント、およびその他のシステムに接続します。

各コントローラーノードの内部に、ネットワークアダプター、制御キャッシュ DIMM、およびデータキャッシュ DIMM 用のスロットがあります。各システムのコントローラーノードの数、ネットワークアダプターのタイプ、およびネットワークアダプターの数を構成することができます。

各コントローラーノードには、各方向に 4GB/秒で動作する他のノードそれぞれへの専用のリンクがあります。HPE 3PAR StoreServ 20800 ストレージシステムでは、合計 56 個のリンクがアレイのフルメッシュバックプレーンを形成します。さらに、各コントローラーノードは、ホストへの 1 つ以上のパスを直接または SAN (Storage Area Network) 経由で持つことができます。コントローラーノードのクラスタリングにより、システムはホストに対し、単一の、高可用性の、高性能ストレージシステムを提供できます。つまり、たとえデータの物理ストレージが別のコントローラーノードに接続されていても、サーバーは任意のホストに接続しているポート上でボリュームにアクセスできることを意味します。これは、高速フルメッシュバックプレーンを介した、非常に低遅延のデータ転送によって実現されます。

Service Console

Service Console または SC と呼ばれる HPE 3PAR Service Console GUI は、ブラウザを介してサービスプロセッサにアクセスします。SC を通じて、SP の初期化、SP サービスの管理、StoreServ システムの追加、サポートデータの収集などを行うことができます。

詳細情報：

サービスプロセッサのセットアップ(15 ページ)

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR サービスプロセッサソフトウェア 5.0 ユーザーガイド* を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

サービスプロセッサ (Service Processor)

サービスプロセッサ (SP) は、サービス関連のすべての通信を管理することにより、IP ネットワークと HPE 3PAR サポートセンター間の通信インターフェイスとして機能します。SP は、ローカルおよびリモートのエラー検出とレポート機能を提供し、付属の HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムに関する診断およびメンテナンス作業をサポートするように設計されています。SP は、Linux オペレーティングシステムと SP ソフトウェアから成っており、分割できない 1 つのエンティティとして存在しています。

この SP は、物理バージョンと仮想バージョンの両方で使用できます。

物理 SP は、システムラックにマウントされたハードウェアデバイスです。物理 SP を選択した場合、稼働サイトに設置される各ストレージシステムには、システムのコントローラーノードと同じキャビネット内に設置された物理 SP が含まれます。物理 SP は、物理的なネットワーク接続を 2 つ使用します。1 つ (eth0) は、ストレージシステムと通信するために、お客様のネットワークからの接続を必要とします。もう 1 つ (eth1) は、メンテナンスだけを目的としており、お客様のネットワークには接続されません。

仮想 SP (VSP) は、オープン仮想化フォーマット (OVF) で提供されます。VSP は、VMware vSphere Hypervisor (VMware ESXi 5.5 以降のクライアントでサポート) でテストされ、サポートされています。VSP には、物理接続はありません。VSP は、お客様所有の、お客様により定義されたサーバー上で動作し、そのイーサネット接続で HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムと通信します。

VSP は、HPE 3PAR StoreServ 7200/7200c、7400/7400c、7450/7450c、8000 ファミリー、および 10000 ファミリーのストレージシステムでのみサポートされます。

詳細情報：

VMware を使用した仮想 SP の展開(15 ページ)

Hyper-V での仮想 SP の展開(16 ページ)

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR サービスプロセッサソフトウェア 5.0 ユーザーガイド* を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

StoreServ ストレージシステム

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムには、データを物理的に保存するハードウェアコンポーネントとデータを管理するソフトウェアアプリケーションが含まれています。

HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムはさまざまなハードウェア構成で使用できます。モデルによって、対応するストレージ容量要件および想定される拡張要件のレベルが異なります。すべてのモデルで、HPE 3PAR OS を使用します。

各 HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムは、複数のコントローラーノードを結合してキャッシュ貫性のあるメッシュアクティブクラスターを形成する、高速フルメッシュパッシブインターコネクトを備えています。

詳細情報：

ホストおよび仮想ボリュームの概念(25 ページ)

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド*を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR サービスプロセッサソフトウェア 5.0 ユーザーガイド*を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>

サポートデータ

サポートデータは、サービスプロセッサまたは接続されたストレージシステムの両方で取得し、Hewlett Packard Enterprise サポートに送信することができます。SP によって収集されるデータは、SP および HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムのメンテナンス、トラブルシューティング、およびアップグレードのために使用されます。

サービスプロセッサのサポートデータ

Service Console では、サービスプロセッサ画面のアクションメニューを使用すると、以下のサポートデータをサービスプロセッサから収集することができます。

SPLOR データ – サービスプロセッサからヘルスデータを収集し Hewlett Packard Enterprise に送信します。

週次データ – 最後に実行された週次プロセス以降の週次ファイルをサービスプロセッサから収集し、ファイルシステムに保存します。ユーザーは手動でデータをダウンロードし、Hewlett Packard Enterprise に送信することができます。

システムのサポートデータ

Service Console では、以下のサポートデータを、接続（アタッチ）されている StoreServ から収集することができます。

生成されたデータ

- **InSplore データ**
 - CLI データ
 - ノードデータ
 - TOC データ
 - ファイルサービスデータ
- **File Persona 収集**

- スリム
- 包括的
- パフォーマンス分析
 - デフォルト
 - 包括的
 - カスタム

既存のファイル

- アプリケーションコアファイル
- システムクラッシュダンプ
- File Persona 自動収集
- File Persona ライブダンプ

システム

「システム」という用語は、HPE 3PAR StoreServ ストレージシステムとそのすべてのコンポーネントを指します。

TUI

サービスプロセッサには、Linux のコンソールに admin としてログインすると自動的に実行される SC のテキストベースのユーザーインターフェイス (TUI) がプリインストールされています。このユーティリティを使用すると、SP の設定と管理が制限され、付属の StoreServ の CLI にアクセスすることができません。

詳細情報：

[テキストベースのユーザーインターフェイス\(33 ページ\)](#)

仮想ボリューム

仮想ボリューム (VV) は、1 つ以上の論理ディスクからデータをマッピングして作成される仮想ストレージユニットです。

ボリュームは、そのリソースを共通プロビジョニンググループ (CPG) から得ます。またこれらのボリュームは、論理ユニット番号 (LUN) としてホストにエクスポートされます。仮想ボリュームは、ホストによって認識される唯一のデータレイヤーです。

VV には、「ベースボリューム」と「スナップショットボリューム」の 2 種類があります。

ベースボリューム

ベースボリュームは、「元の」VV と見なすことができ、フルプロビジョニングされた仮想ボリューム、シンプロビジョニングされた仮想ボリューム、またはシンプロビジョニングされ重複排除された仮想ボリュームのいずれかです。

フルプロビジョニングされた仮想ボリューム (FPVV) - ユーザーデータ用に割り当てられたスペースが固定されたボリューム。

シンプロビジョニングされた仮想ボリューム (TPVV) - プールからスペースを引き出し、オンデマンドでスペースを割り当てるボリューム。

シン重複排除された仮想ボリューム (TDVV) - インラインデータ重複排除機能を備えたシンプロビジョニングされた仮想ボリューム。TDVV は、TPVV と同じ特徴に加えて、データをボリュームに書き込む前に、重複データを削除する機能を持っています。

スナップショットボリューム

スナップショットボリュームは、HPE 3PAR Virtual Copy ソフトウェアを使用して作成されます。スナップショットが最初に作成されると、そのすべてのデータが親ボリュームのデータに間接的にマッピングされます。ブロックが親に書き込まれると、元のブロックが親からスナップショットデータスペースにコピーされ、スナップショットがこのデータスペースを指すようになります。同様に、ブロックがスナップシ

ショットに書き込まれると、データはスナップショットデータスペースに書き込まれ、スナップショットはこのデータスペースを指します。これらのスナップショットは、書き込み時コピー（COW）のスナップショットです。

特定のシステム構成で作成可能な仮想ボリュームおよび仮想ボリュームコピーの最大数については、次の SPOCK の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/storage/spock>

詳細情報：

次の Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで、*HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド*を入手できます。

<http://h20566.www2.hpe.com/portal/site/hpsc>